

米国メイヨークリニックにおける看護職者のカルチュラル・コンピテンス向上のための取り組み

著者	杉浦 絹子
雑誌名	三重看護学誌
巻	12
ページ	93-95
発行年	2010-03-20
その他のタイトル	A curriculum for nurses working at Mayo Clinic in order to enhance their cultural competence
URL	http://hdl.handle.net/10076/11368

米国メイヨークリニックにおける看護職者のカルチュラル・コンピテンス向上のための取り組み

杉浦 絹子

Key Words: Cultural competence, nurse, education, Mayo Clinic

はじめに

筆者は、2008年9月～10月に米国ミネソタ州ロチェスターにあるメイヨークリニックを訪れ、臨床看護実践および現任教育の実際を垣間見ることができた。本稿では、メイヨークリニックの看護職者のカルチュラル・コンピテンスを向上させるための取り組みに関して、看護職者向け教育プログラム、ならびに通訳配置や外国語による教育資材などの環境整備状況について報告する。

1. メイヨークリニック（ロチェスター）とその周辺環境

メイヨークリニックのあるロチェスターは人口10万人弱の小ぢんまりとしたミネソタ州の中で3番目に人口の多い市である。ロチェスターの人口内訳は2005年のデータによれば、白人が78,303人、アフリカ系が7,389人、アジア系が6,349人、ヒスパニックあるいはラテン系が4,722人で、最近ではヒスパニックあるいはラテン系が増加傾向にあるという。公立小学校で児童が話している言語は総計52言語にも上るといふ。

移民国家である米国において外国人あるいは外国の文化背景をもつ人を定義することは難しいことから、メイヨークリニックには外国人患者が何名かという統計はないという。

メイヨークリニックはロチェスターのダウンタウンにあり、メゾジスト・ホスピタル（794床）とセント・メアリー・ホスピタル（1242床）から成る総合病院で、総計30棟の建物と5つの巨大駐車場を備えている。米国内はもとより、世界中から最新の医療を求めて患者が来院する。メイヨークリニックの周辺には外来治療を行う患者が利用する長期滞在者用のモーターホテルが多数あるが、その多くが患者の通院やホテル生活の買い

物等のために複数台のシャトルバスを病院やショッピングモールとの間で定期運行している。

2. メイヨークリニックのミッション、看護部の理念

メイヨークリニックのミッションは「臨床実践、教育、研究の3者を統合し、常にすべての患者に最良のケアを提供すること」であり、看護部の理念は「①患者のニーズを第一に考える、②世界一良い看護ケアを提供する、③中核となる価値観は“看護師による説明責任”、“ケアの継続”“専門的な実践を保証する環境”、④臨床実践、教育、研究の3者を統合する“」である。

3. 文化多様性委員会、トランスカルチュラル・ケア下部委員会

2001年にメイヨークリニック理事会はメイヨークリニック文化多様性委員会戦略プランを採択した。看護職約20名のメンバーで構成される文化多様性委員会のトランスカルチュラル・ケア下部委員会教育ワーキンググループがその取り組みとして、①カルチュラル・コンピテンス向上のための教育カリキュラムの開発と実施、②ケア実践に活用するための資源の開発、③患者教育資材の翻訳整備、④通訳サービスの整備、に取り組んでいる。

これらの取り組みの理論的基盤は、トランスカルチュラル・ナーシング学の研究者である Campinha-Bacote 氏のカルチュラル・コンピテンスの発達過程に関する理論¹⁾である。

4. カルチュラル・コンピテンス向上のための教育カリキュラムの開発と実施

トランスカルチュラル・ケア下部委員会教育ワーキンググループが開発した教育カリキュラムを図に示す。第1段階から第5段階から成り、下位段階から順に受講していく。1年間に約400人の看護職者がこの

	5	文化アセスメント： ストーリーテリングテクニックの使用（看護師のみ）（授業参加あるいは職員用図書室での個別学習モジュールもあり）	文化に関わる一般的な事柄について
	4	複数の文化間のコミュニケーション（授業）	
	3	医療通訳者の効果的利用（授業参加あるいは職員用図書室での個別学習モジュールもあり）	
	2	メーヨークリニックの職員用ネット上の文化を考慮したケアの提供のための資源の利用	
	1	文化が認知や思考、行動にどのような影響を及ぼしているのかについて理解する（授業）	
			自分自身に気づく

図 カルチュラル・コンピテンス向上のための教育カリキュラム

研修を受講しているという。「文化が認知や思考、行動にどのような影響をおよぼしているのかについて理解する」第1段階では、異なる文化における習慣、信念、コミュニケーションスタイルなどに接する体験学習として異文化コミュニケーション領域のシミュレーションゲームであるバファバファを取り入れている。参加者は自分にとっての常識と異なる行動を行う対象にとまどい、不快感を抱き、そのことをグループでディスカッションするというものである。

5. 文化アセスメントガイド

文化アセスメントガイドは院内の職員のみが利用

できるイントラネット上に掲載されており（写真1）、どのような視点で文化アセスメントを実施するのが示されている。その視点として①言語、②コミュニケーションスタイル、③家族構成・社会構成と家族成員の役割、④意思決定者、⑤健康や疾病、および疾病の下委員に関する信念や見方、⑥文化的・霊的ヒーラー、⑦疼痛の表現、⑧食習慣、⑨宗教的・霊的サポート、の7項目が挙げられている。

加えて、特定の文化集団のこれらの特徴についての情報も掲載されている。特定の文化集団には、ヒスパニック、カンボジア、中国、ソマリア、ベトナムなどがある。

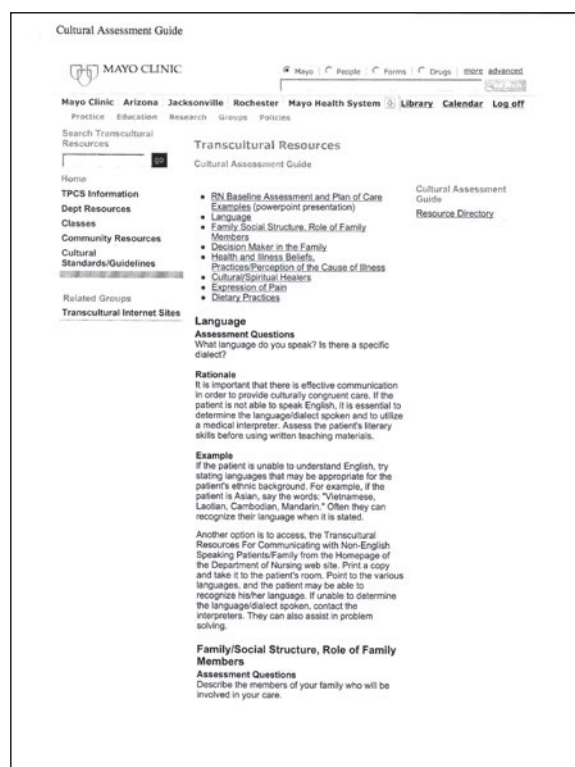


写真1 イン트라ネット上の文化アセスメントガイド

6. 通訳サービス

通訳サービスは無料で利用できる。常時利用可能な言語は30言語、必要時通訳を手配して利用可能な言語は11言語である。これ以外の言語の場合には大手電話会社AT&Tの通訳サービスを利用することになる。通訳者はトレーニングを受けた医療通訳者であり、患者の家族には極力通訳をさせないように配慮しているという。

7. 患者教育資料の外国語への翻訳

メーヨークリニックは患者教育センター（写真2）とがん教育センターを備え、膨大な量の患者教育用ブックレット、パンフレットや閲覧に供する書籍、視聴覚教材を用意している。翻訳された患者教育資料は497種類を数え、内訳はスペイン語291種類、アラビア語122種類、ソマリア語43種類である。

8. 国際センター

セントメアリー・ホスピタルの1階には、ホテルのフ



写真2 患者教育センター

ロントのような雰囲気国際センターがある。このセンターでは、外国からの患者の問い合わせに応じ、診療・治療の予約、保険や治療費支払いの相談、外来診療の滞在ホテルや航空券の手配などを行っている(写真3)。



写真3 国際センター

おわりに

メイヨークリニックのカルチュラル・コンピテンス向上のための看護職者向け教育プログラム、ならびに通訳配置や外国語による教育資材などの環境整備状況について記述した。医療者がカルチュラル・コンピテンスを向上させることは世界一良い医療と看護を提供するという病院全体のミッションと看護部の理念に通じるものである。また、その一方でこういった取り組みに巨額の資金を投入できる背景には、裕福な患者がメイヨークリニックの医療と看護に引きつけられて世界中から来院しているという状況がある。理念に忠実な実践が高い評価と利益を生み出すことに繋がっていると捉えられた。

本稿は平成20年度木村看護教育振興財団海外看護研修助成による海外研修内容の一部を報告したものである。

引用文献

- 1) Campinha-Bacote J, The process of cultural competence in the delivery of healthcare services, 3rd ed., Transcultural C.A.R.E. Associates, Cincinnati, OH., 1998

異文化間能力。異文化背景をもつ患者の文化を考慮したケアを提供する能力。

キーワード：カルチュラル・コンピテンス、看護職者、教育、メイヨークリニック

